



放射線業務の安全の質 管理マニュアル

活用報告

苫小牧市立病院
村上 佳宏

Disclosure of conflict of interest

We have nothing to declare for this study.

the 74th Annual Meeting of the JSRT
Japanese Society of Radiological Technology

マニュアルの内容

▶ 「基礎チェック項目」

▶ 会員個人が現場で活用しやすい内容で全てに共通するもの。15項目で全員共通 60点満点。

▶ （放射線治療は10項目 40点満点。）

▶ 「専門チェック項目」

▶ モダリティごとの安全対策。会員個人が業務しているモダリティごと10項目 40点満点。

▶ （放射線治療は30項目 60点満点）

活用事例

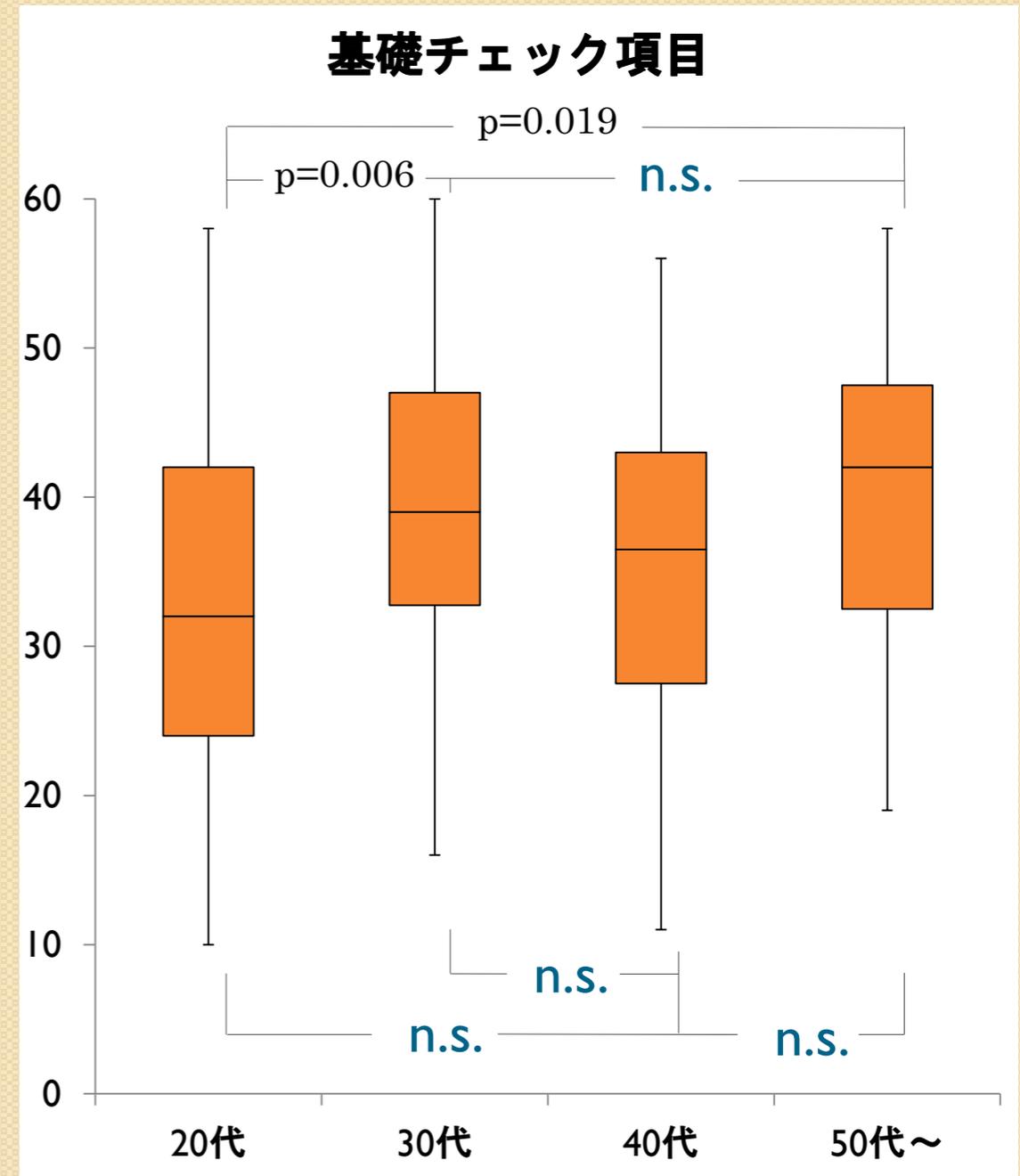
②北海道内実施結果

- ▶ 北海道内の大・中規模施設の診療放射線技師
- ▶ 12施設202名
- ▶ 回収数 168名 回収率 83%

基礎項目：年代別

- ▶ 全体：36.5 ± 11.7 (n=140)
 - ▶▶ 20代：32.4 ± 11.8 (n=49)
 - ▶▶ 30代：39.4 ± 11.3 (n=40)
 - ▶▶ 40代：34.4 ± 11.5 (n=28)
 - ▶▶ 50代～：39.4 ± 10.4 (n=23)

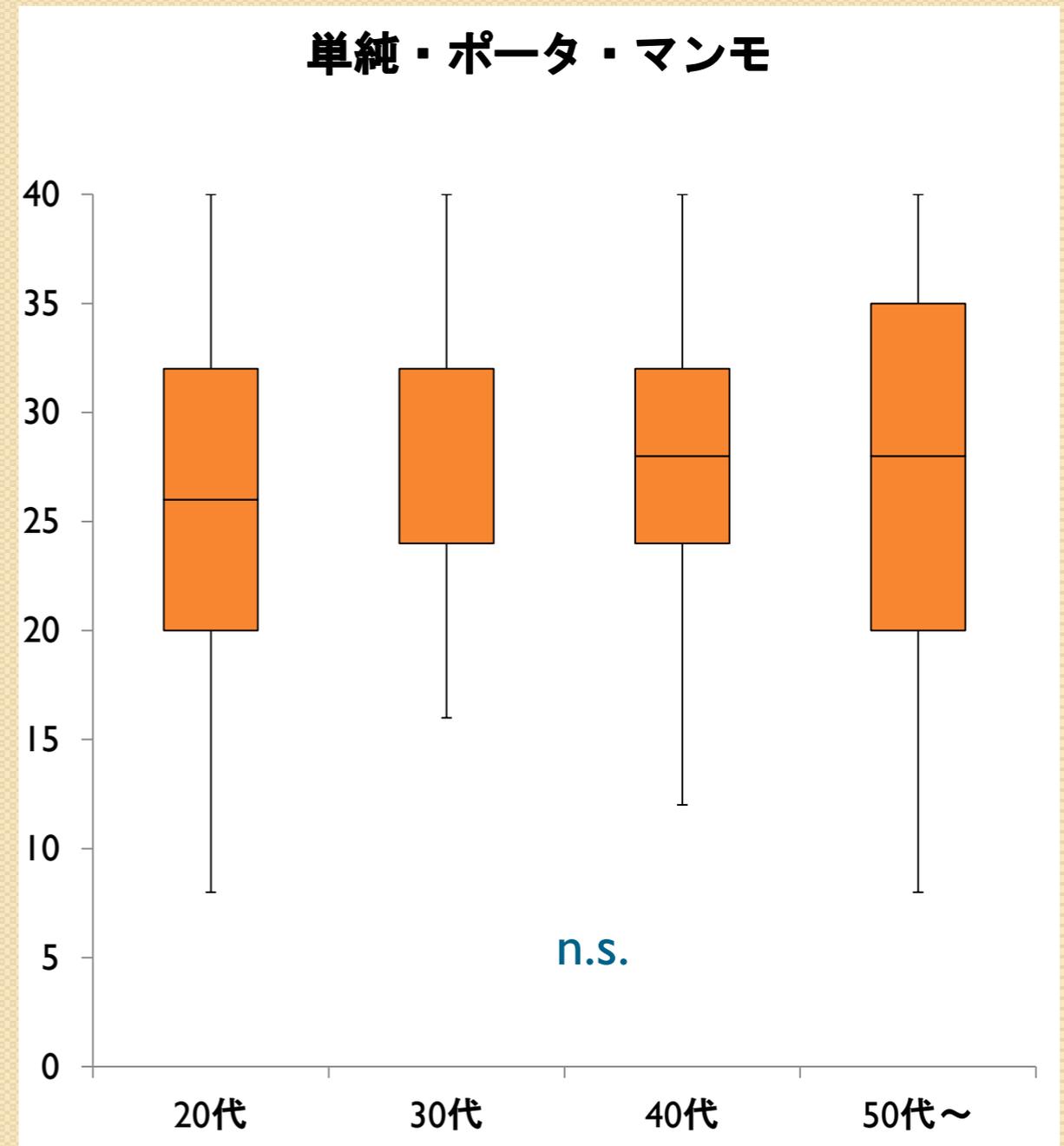
One Factor ANOVA : F=3.68 , p=0.014



専門項目：単純・ポータ・マンモ

- ▶ 全体：27.0 ± 8.6 (n=121)
 - ▶▶ 20代：26.8 ± 9.2 (n=48)
 - ▶▶ 30代：28.7 ± 6.7 (n=30)
 - ▶▶ 40代：28.0 ± 7.8 (n=21)
 - ▶▶ 50代～：26.6 ± 9.9 (n=22)

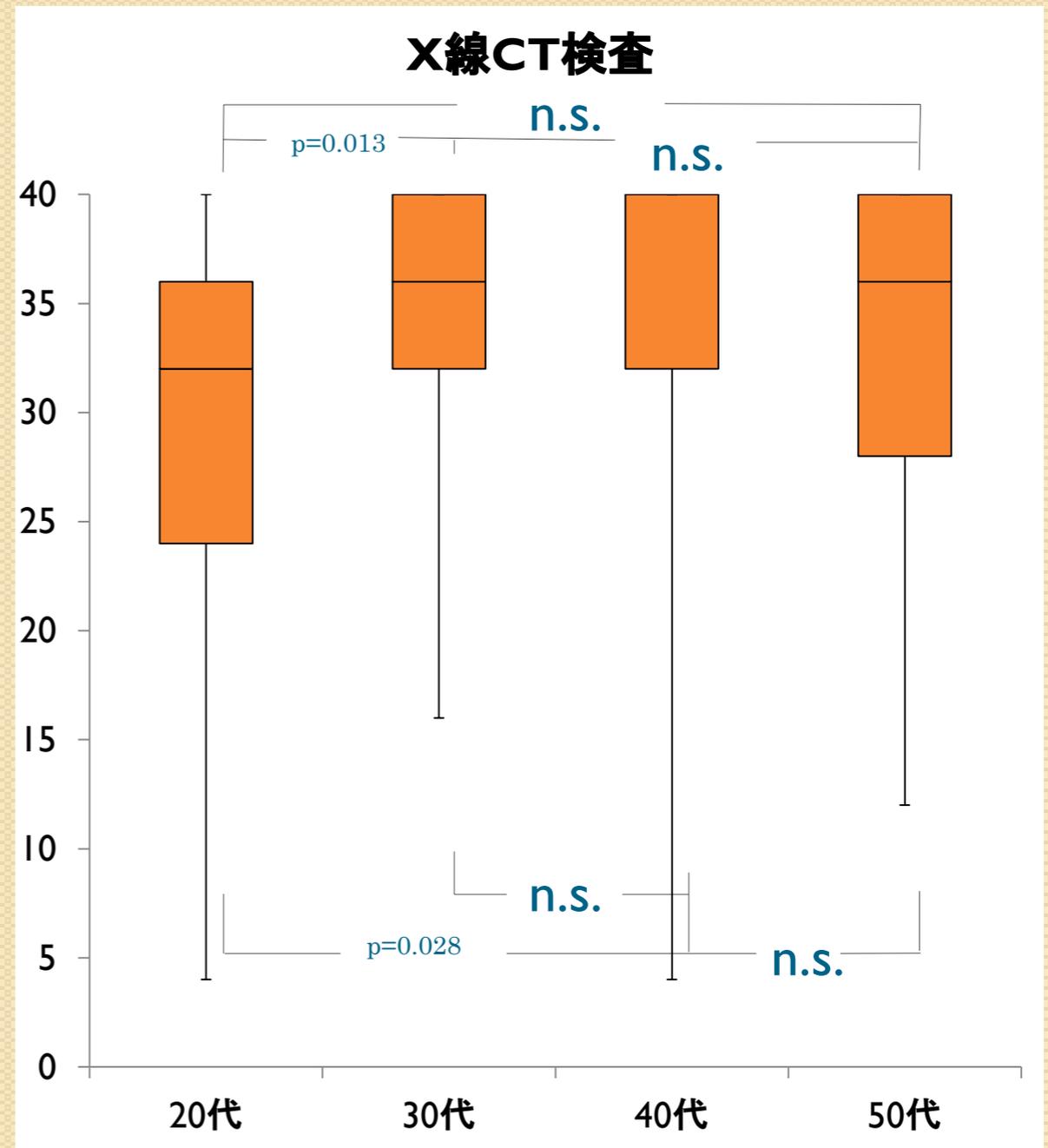
One Factor ANOVA : F=0.67 , p=0.571



専門項目：X線CT

- ▶ 全体：32.1 ± 8.3 (n=99)
 - ▶▶ 20代：29.4 ± 8.6 (n=38)
 - ▶▶ 30代：34.2 ± 5.6 (n=27)
 - ▶▶ 40代：34.8 ± 8.8 (n=20)
 - ▶▶ 50代～：32.2 ± 9.9 (n=14)

One Factor ANOVA : F=2.76 , p=0.046



集計結果について

- ・ 各項目の平均点は下表のとおり
- ・ 性別による得点の差は認められなかった
- ・ 年代別による得点の差は、「基礎項目」と専門項目のうち「単純他」「X線CT」に認められた。

項目	平均点 / 満点	年代による点数の差
基礎項目	36.5 / 60	あり (20代-30代、20代-50代~)
単純・ポータ・マンモ	27.0 / 40	n.s.
X線TV・AG	30.1 / 40	あり (20代-30代、20代-40代)
X線CT	32.1 / 40	あり (20代-30代、20代-40代)
MR	27.0 / 40	n.s.
RI・PET	36.4 / 40	n.s.
基礎項目 (放射線治療)	28.5 / 40	
放射線治療	37.0 / 60	n.s.

チェックが少なかった項目

▶ 【基礎項目】

- ▶ 《安全情報確認》 ③-③安全情報に関する院内ルールを守り、その意味を説明できる
- ▶ 《患者確認》 ④-③患者誤認防止の取り組みを定期的に検証・評価している
- ▶ 《検査前確認》 ⑤-①説明用紙・モニタ等を利用して検査内容を説明している
- ▶ 《転倒・転落防止》 ⑥-③業務環境における危険予知トレーニングを行なっている
- ▶ 《患者状態確認》 ⑦-③呼出機を患者に手渡し、適宜患者の状態の変化を監視している
- ▶ 《感染対策》 ⑨-②検査・治療の開始終了後に寝台コソールの清掃、手洗いを実践している

チェックが少なかった項目

▶ 【専門項目】

▶ ・単純撮影・ポータブル・マンモグラフィー

- ▶ 9.シャーカステン、読影用モニタの管理が適切に行われている

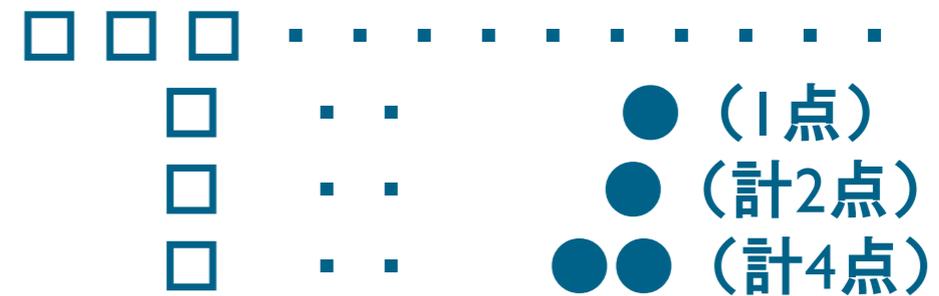
▶ ・X線CT検査

- ▶ 22.検査前に植込み型デバイス（植込み型ペースメーカー、植込み型除細動器など）のチェックを行っている
- ▶ 28.造影剤種類のチェックと造影剤自動注入器の安全確認および血管留置カテーテル操作、静脈注射抜針の手順を熟知し行っている

▶ ・MR検査

- ▶ 35. 条件付MRI対応心臓植込み型電氣的デバイス等の生命維持装置を留置した患者の検査時に、専門とする診療科・部署との連携し行っている
- ▶ 39. MRI撮像の通常操作モードの基準値を超える場合及び鎮静下において、適切な医療管理体制を理解し対応している

チェックリストを利用する際の 問題点等



- ▶ ・チェックの選択ミス、チェック方法の勘違い等により、正しいチェックが出来ていない回答者が見受けられた。
- ▶ ・各施設の実状と合っていない部分がある。施設の規模、特徴、診療内容の違い、モダリティの有無など、各項目にチェックすべきかの判断が難しい。
- ▶ 経験年数やモダリティ担当年数によって習熟度が違うことにより、各個人の基準が異なるため、点数の違いが安全度の違いを正しく表していないという懸念がある。

医療安全 啓発前後の変化

③啓発前後の得点の変化

- ▶ 方法：名刺カードにチェックされなかった内容を記載（基礎項目・専門項目）
- ▶ 4月～8月の4か月間に4回カードを発行し、時々その内容について、抜き打ち質問を行う
- ▶ 啓発前後の得点の変化を調べる



アンケートについて

- ▶ (1) 「安全管理基礎チェックリスト」について伺います。
 - ▶ (ア) 「個人用基礎チェック項目（診断①～⑮）（治療①②③④⑥⑦⑧⑨⑫⑬）」の内容は分かりやすかったですか。
 - ▶ 1. 大変分りやすい 2. 分りやすい 3. 普通 4. 分りにくい 5. 大変分りにくい
 - ▶ (イ) 「個人用専門チェック項目（診断①～⑥） 1. ～60.（治療⑦） 71. ～100.」の内容は分かりやすかったですか。
 - ▶ 1. 大変分りやすい 2. 分りやすい 3. 普通 4. 分りにくい 5. 大変分りにくい
- ▶ (2) このチェックリストの活用について伺います。
 - ▶ (ア) このチェックリストを利用することで、あなたの医療安全に対する意識が高まったと思いますか。
 - ▶ 1. 非常に高まった 2. 高まった 3. 変わらない 4. むしろ低下した 5. その他
 - ▶ (イ) このチェックリストを活用することで、職場の医療安全に対する意識高揚に役立つと思いますか。
 - ▶ 1. 大変役に立つ 2. 役に立つ 3. 変わらない 4. 役に立たない 5. 全く役に立たない

アンケート回答：136件/168件（全回答） 回収率81%

アンケート集計 1

- ▶ 「安全管理基礎チェックリスト」について伺います。

基礎チェック項目の内容は分りやすかったですか？				
1. 大変分りやすい	2. 分りやすい	3. 普通	4. 分りにくい	5. 大変分りにくい
2	19	51	45	19

専門チェック項目の内容は分りやすかったですか？				
1. 大変分りやすい	2. 分りやすい	3. 普通	4. 分りにくい	5. 大変分りにくい
3	28	61	31	12

アンケート集計 2

- ▶ このチェックリストの活用について伺います。

チェックリストの利用であなたの医療安全に対する意識が高まったか？				
1. 非常に高まった	2. 高まった	3. 変わらない	4. むしろ低下した	5. その他
3	62	70	0	0

チェックリストの利用で職場の医療安全に対する意識高揚に役立ったか？				
1. 大変役に立つ	2. 役に立つ	3. 変わらない	4. 役に立たない	5. 全く役に立たない
6	66	52	9	2

アンケート集計：自由記載

- ▶ ・意識を高めたいならもっとシンプルな表現じゃないと伝わらないと思います。
- ▶ ・当院で行っていることと設問で一致する所、しない所が一文内にあり、チェックをつけて良いかなやむ。
- ▶ ・回ったことがないモダリティ、対応していないモダリティについて、全員が答えることはできないと思います。
- ▶ ・とてもわかりにくかった。
- ▶ ・数問、意図がわかりにくい設問があった。

アンケート集計：自由記載

- ▶ ・それぞれの施設・モダリティによって安全に対する考え方、又その対策は異なると考えられる。
- ▶ ・今回のチェックシートでは施設・部門により不必要な項目であったり、その意図がわからない項目が見受けられる。例えば、70点と80点の者がいたとして70点の者が安全意識が低いとは言い切れない。
- ▶ ・全施設に適合するマニュアル作成は不可能と思うが、あえて作成するのであれば基礎的な部分に的を絞りそれ以上の部分は提言としてまとめる方が良いと思う。今の時代、安全に対する意識を高めることは不可欠であることを考えると、この試みは大変有意義なことに思う。

安全の質管理マニュアル 活用のすすめ



- ▶ **安全・安心・信頼**の保証（**ルーブリック評価**）
- ▶ 医療安全に対する意識や活動を「見える化」する → **点数化**.
- ▶ 各個人が最低限必要と考えられる医療安全行為について**再認識**できる → チェックシートの活用で**自らの不足部分**を認識し、**事例等を参照**できる
- ▶ 医療安全行為について、**目標をもって取り組む**ことにつながる → **具体的な医療安全目標を設定**できる